

会 議 録

会議の名称		令和6年度第2回高山学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和6年10月1日（火）開会9:30 閉会11:40		
開催場所		つくば市立香取台小学校 会議室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	亀山健一郎、飯野 誠一、山本 敦之、飯島 賢一、 清水 健、根本 一城、鈴木 一雄、堀口 絹代、 中川 元、宇都宮 町子、堀越 直子 高山中学校：校長 荒井 克彦、教頭 小林 博 教務主任 浅野 陽子 副教務主任 毛塚 裕之 真瀬小学校：校長 大久保悦郎 教頭 諸橋 智紀 島名小学校：校長 大西 秀重 教頭 小松原 英樹 教務主任 杉崎 妙子 香取台小：校長 塚本 明 教頭 佐藤 尚子 教務主任 鈴木 一彦		
	その他			
	事務局	教育局生涯学習推進課 参事：山口 健次 教育局生涯学習推進課 課長補佐：瓜阪 恵理名 教育局生涯学習推進課 係長：飯島 遊 教育局生涯学習推進課 社会教育主事 村上 和宏 教育局生涯学習推進課 地域連携教育指導員 酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由		つくば市情報公開条例第5条第1号（個人情報）に該当する情報を取り扱うため		
議題		熟議1「学校の教育活動において、子どもたちのために学校と地域が行えることは～現在における地域の資源・人財・活動等の理解を通して子どもたちの未来を考える～」		

	熟議2「地域のために学校ができることは～学校が持つ力を地域にどのように活かすことができるか～」		
会議録署名人		確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 前回の議事の確認 4 協議 (1) 熟議「学校の教育活動において、子どもたちのために学校と地域が行えることは～現在における地域の資源・人財・活動等の理解を通して子どもたちの未来を考える～」 (2) 授業参観及び施設案内 (3) 熟議「地域のために学校ができることは～学校が持つ力を地域にどのように活かすことができるか～」 (4) その他 ・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について 5 閉会		

<審議内容> 1 開会 亀山座長：ただ今から、令和6年度第2回高山学園コミュニティ・スクール推進会議を開会します。会議を進行するにあたり書記を高山中学校 浅野委員にお願いします。→承認 2 挨拶 亀山座長：有意義な会議にしたいと考えております。 荒井委員：いろいろな意見をいただければ幸いです。 3 前回の議事の確認 佐藤委員：前は、各学校の学校運営の基本方針についての説明及び「地域・学校・保護者で育てていきたい児童生徒像について」の熟議をしていただきました。 4 協議 (1) 熟議1「学校の教育活動において、子どもたちのために学校と地域が行えることは～現在における地域の資源・人財・活動等の理解を通して子どもたちの未来を考える～」 ① 学校ごとに地域資源の活用の現状と課題について紹介 ○高山中 ・家庭科 8年：ゆかた体験 9年：保育園訪問 ・つくスタ 7年：職場見学 8年：職業職人から話を聞く会 ・【課題】部活動のクラブ化をどのように進めていくか ○真瀬小 ・町探検（2年）ネギ農家をGTにした授業（3年） ・サツマイモ栽培（縦割り）、真瀬保育所との交流 ・【課題】日時の確保、移動手手段の確保、予算 ○島名小	
---	--

- ・地域と連携した教育活動（年計）に沿って実施
- ・町探検（2年）、学区探検（3年）、稲作（4年）など
- ・【課題】日時・手段・目的の確認など連絡調整

○香取台小

- ・町探検（2年）、地区探検（3年）Z O Z O出前授業（4年）
- ・高学年のキャリア教育で保護者人財バンクの活用
- ・香取台クリーンアップ大作戦（5年）
- ・公園の清掃やポスター掲示時に市との連絡調整の手続きの煩雑さ

② 地域資源活用についての意見交換（各学区ごと）

20分の話合い後、発表

○高山中

- ・高山学園地区の過去・今・未来についての学習を行い、地域の方に当時の話をしていただいたり、写真を提供していただいたりする。
- ・職場体験について、コロナ禍で一度関係がきれてしまったものを再構築していく必要がある。
- ・部活動のクラブ移行は、国や県の方針を確認しながら進める。

○真瀬小

- ・「食」への将来の課題を理解させた上で、農業体験などの学習につなげる。
- ・子どもたちの知りたいことを学ばせる場としての役割
- ・サツマイモ学びの充実化
- ・CS委員のアイデアをどのように地域に広げていくのか。

○島名小

- ・民間企業との関わりを充実させる。
- ・キャリア教育では、働きがいを含めて地域の方の話を聞く
- ・学校と関わり合いたい保護者・地域の方との関わりをどのように広げていくか。（人材バンク）

○香取台小

- ・子供SOS（クリーンアップ大作戦を進めていく上の市との連絡調整等）に保護者が協力する。
- ・キャリア教育の人材バンクの募集の視点を認定スキル・知識など様々な視点があるといい。

(2) 授業参観及び施設案内

※4年～6年の授業参観

(3) 熟議2「地域のために学校ができることは～学校が持つ力を地域にどのように活かすことができるか。」

佐藤委員：学校の子どもの学びを地域にどう貢献できるか、学んだことをどう表現していくかという視点で、子どもの学びの発信力を探っていければと思います。（各学校区で話合い、その後発表）

○高山中

- ・地域のニーズを捉えることが大切。そのニーズに合わせて学校でできることを実践する。
- ・「あいさつを元気にする。」ことなどを通して、学校のよい雰囲気を地域に広げ、地域の方との交流の機会とする。
- ・熟議1の「高山中学区の過去・今・未来」の学習で、理想的な未来の形を

提案し、地域の方からフィードバックをもらう。

○真瀬小

- ・防災教育で地域とつながるのはどうか。住んでいる地区（小貝川）について知り、どうすればよいかを共に考え、共有する。
- ・体験活動など地域を学ぶときに、地域の方とのミーティングを大切にする。

○島名小

- ・4年生でごみの処理等について学習する。毎年行っているPTAの廃品回収に4年生の積極的な参加を促し、実践的な学習につなげる。
- ・多様性について学習する上で、福祉施設への訪問や相互の関わりをもつ。

○香取台小

- ・地域のハブとしての学校の役割。地域の名プレイヤーを掘り起こす
- ・防災プロジェクト
- ・あいさつ運動の活性化

佐藤委員：「地域のニーズを捉え、学校の活動を変えていくという視点をもつ。」また、「最近、挨拶してくれる児童が増えてうれしいという地域の方の言葉を児童に紹介し、自分たちが地域のためにできることを考えられるように促す」というような内容が話し合いの中で出ていました。子どもたちに「地域に目を向けさせること」を大切にしていけたらと思います。

(4) その他

清水委員：熟議で意見を出したことは、期限を決めて、プロジェクトを動かしていかなければいけないのか？今後、期限が決められて、成果を求められるのか。

荒井委員：ここにいる委員がプロジェクトチームではない。高山学園としてどんな子供たちを育てていくのかを見つけている状況である。「今、何が課題なのか。何ができるのか」をみなさんで探し出し、これからの方向性を見出していければいいのではないかと考えています。

鈴木委員：今後の開催予定について

3回目、令和6年12月5日(木) 会場：高山中学校

4回目、令和7年2月20日(木) 会場：島名小学校

5 閉会

本日の会議の様子や写真はつくば市教育委員会ホームページ掲載予定。

令和6年度 第2回高山学園コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和6年 10月1日（火）

9：30～

場所：香取台小学校 2F 会議室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 前回の議事の確認

4 協 議

(1) 熟議 テーマ1

「学校の教育活動において、子どもたちのために学校と地域が行えることは～現在における地域の資源・人財・活動等の理解を通して子どもたちの未来を考える～」

(2) 授業参観及び施設案内

(3) 熟議 テーマ2

「地域のために学校ができることは～学校が持つ力を地域にどのように活かすことができるか～」

(4) その他

・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

5 閉 会

地域資源活用のこれまでとこれから つくば市立高山中学校

「社会に開かれた教育課程」実現のためには、地域資源の活用が一つの鍵と考えられます。
 地域資源(人、もの、場所、自然、歴史文化、企業…)活用のこれまでと、これからを考えていきましょう。

育てたい 子どもの 姿・力は？	○自らを信じ豊かな心でたくましく生きる生徒の育成 ・将来の夢や目標をもち、自分の可能性を広げること積極的に挑戦する生徒 ・社会とのつながりを意識し、自己を向上させるとともに、自らの社会をよりよく変えていこうとする生徒		
	① これまで取組んできたこと (学年、教科、単元、地域資源…) →	② これから取組んでみたいこと は？ 取組めそうなことは？ (学年、教科、単元、地域資源…) →	③ 実現して行くための課題は？ →
各教科 道徳科 つくばスタイル科	・8年、家庭科、「浴衣の着方教室」、浴衣を着ることによって日本の伝統文化に触れる ・8年、つくばスタイル科、「自分を知ろう！実社会での体験」、職業人から話を聞く(美容師・寿司職人・クリーニング業・ホテル業)	・各教科の中での活用 ・つくばスタイル科での活用	・各教科とも専門性が高くなることから、どの単元でどんな地域資源を活用するのか見通しをつけること ・地域資源のリスト化
特別活動 学校行事 部活動	・部活動のクラブ化	・部活動の地域移行	・高山学園のみの課題ではないので、国、県、市の動向をよく鑑みながら進める必要がある ・指導者、受け入れ団体を見つけることができない ・どのように組織化していくのか道筋が不明
その他	・7年、つくばスタイル科、職場見学、働いている人を見て職業観を高める	・地域産業の理解を深め、地域社会に貢献する態度を養う、	・協力者(企業)の拡充

地域資源活用のごこれまでとこれから つくば市立真瀬小学校

「社会に開かれた教育課程」実現のためには、地域資源の活用が一つのカギと考えられます。
 地域資源(人、もの、場所、自然、歴史文化、企業…)活用のこれまでと、これからを考えていきましょう。

育てたい 子どもの 姿・力は？	進んで学び、自分らしく表現できる児童・自他を大切に笑顔で生活できる児童・心身ともに健康でたくましい児童			
	① これまで取組んできたこと (学年、教科、単元、地域資源…)	② これから取組んでみたいこと は？ 取組めそうなことは？ (学年、教科、単元、地域資源…)	③ 実現して行くための課題は？	④ 課題の解決の手だては？
各教科 道徳科 つくばスタイル科	例)3年、社会、農家のしごと、 ブルーベリー農家見学 ・2年生活 町探検 ・3年社会 農家の仕事	例)3年、社会、農家の仕事、複数種 の農家から選択させたい ・ジオパーク等の学習をしてみたい ・国総研等の派遣授業 ・エキスポセンターの活用	例)受入れ先を見つけることができない。 ・校外学習の場合の日時 ・時間の確保 ・移動手段の確保、予算	・市の予算の有効活用 ・前年度からの学園内での行事予定の作成、確認 ・地域人財、教育的財産の発見、共有
特別活動 学校行事 部活動	・縦割り班でのさつま芋栽培 飯泉さんのご協力 ・真瀬保育所との交流	・保護者の職業や趣味による、コンサートなどの出前授業等	・時期の検討 ・移動手段の確保、予算	・市の予算の有効活用 ・前年度からの学園内での行事予定の作成、確認 ・地域人財、教育的財産の発見、共有
その他				

地域資源活用のこれまでとこれから つくば市立香取台小学校

「社会に開かれた教育課程」実現のためには、地域資源の活用が一つのカギと考えられます。
 地域資源(人、もの、場所、自然、歴史文化、企業…)活用のこれまでと、これからを考えていきましょう。

育てたい 子どもの 姿・力は？	○多様な他者と協働して正解のない答えに対して、納得解を見つけ出すことができる子ども ○多様な職業人の話を聴き、キャリア形成(現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成)を図れる子ども			
	① これまで取組んできたこと (学年、教科、単元、地域資源…)	② これから取組んでみたいこと は？ 取組めそうなことは？ (学年、教科、単元、地域資源…)	③ 実現して行くための課題は？	④ 課題の解決の手だては？
各教科 道徳科 つくばスタイル科	2 年生活科「私のまち発見」学区内のお店 4 年つくスタ「ふれあおう人と人」ZOZO 6 年つくスタ「いろいろな仕事を調べてみよう」保護者 6 年つくスタ「おかしな株式会社」日本証券業界	つくば市がもつ「強み」を活かしたキャリア教育の推進 ・JAXA との連携 ・研究機関との連携	関係機関との連絡調整 (つくば市生涯学習課とのコラボを現在進めている。)	
特別活動 学校行事 部活動	5 年特別活動「吉祥公園のゴミ問題を解決しよう」	ゴミ問題におけるつくば市役所と児童との折衝(環境整備課・公園施設課と折衝中) 駅前あいさつ運動の実施 アントレプレナーシップの育成(香取台キッズマートと香取台フェスティバルのコラボ企画)による地域の活性化とまちづくり	手続きの煩雑さ 万博記念公園駅や警察との連絡調整 関係機関が多数にわたる事からその連絡調整が学校だけでは難しく実現に至っていない	
その他				

地域資源活用のこれまでとこれから つくば市立島名小学校

「社会に開かれた教育課程」実現のためには、地域資源の活用が一つのカギと考えられます。
 地域資源(人、もの、場所、自然、歴史文化、企業...)活用のこれまでと、これからを考えていきましょう。

育てたい 子どもの 姿・力は？	○よく考え自ら学ぶ子ども ○人とかかわり合い 思いやりのある子 ○心身ともに健康で 明るくたくましい子			
	① これまで取組んできたこと (学年、教科、単元、地域資源...) 別紙参照	② これから取組んでみたいこと は？ 取組めそうなことは？ (学年、教科、単元、地域資源...) →	③ 実現して行くための課題は？ →	④ 課題の解決の手だては？
各教科 道徳科 つくばスタイル科	別紙参照	・学校周辺の地域の方とのふれあいを通した学び(授業参加) ・つくば市にある研究施設への見学や講師の招聘 ・キャリア教育の観点からの職場訪問(体験を含む)	関係機関との連絡調整 ・関係機関との選別から始まり、交渉、日程の調整や内容の確認等、1つの活動を企画・運営するだけでも、その準備にかなりの労力がかかる。	
特別活動 学校行事 部活動	別紙参照			
その他				

地域と連携した教育活動 年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年	交通安全教室	校外学習					親子活動 サイエンスショー	遠足		保幼小交流会		保幼小交流会	
	防犯交通安全課	香取台 吉祥公園					つくば エキスポセンター	東武動物公園		あきまつり		小学校の紹介	
2年	交通安全教室		遠足				まちたんけん	親子活動 サイエンスショー					
	防犯交通安全課		大洗 アクアワールド				学区内事業所	●●●					
3年			出前授業 ジオパーク	学区探検		ブルーベリー農 園見学	遠足	親子活動		消防署見学			
			筑波山地域 ジオパーク 推進協議会	学区内事業所		中根ブルーベ リー園	ミュージアムパーク 森永乳業			つくば 中央消防署			
			出前授業 リーダー講習会					スーパーマーケット 見学					
			すざわ書店					カスミストア (万博記念公園 駅前店)					
4年		水の中の 微生物	ゴミの減量 分別教室		ごみ処理場 見学		遠足	親子活動	学校訪問 ブックトーク		ZOZO出前授業	人権教室	
		霞ヶ浦 環境科学センター	市生活環境部		つくばサステナ スクエア		水戸・笠間	防災教室	市立 中央図書館		ZOZO	県人権擁護 委員連合会	
5年		田植え	宿泊学習				「流れる水の働 き」の学習	稲刈・脱穀 もみすり	土木の日 施設見学	親子活動		生教育講演会	地域の産業と 歴史
		さぼーと島小 (大野さん)	さしま 少年自然の家				建築技術研究所	さぼーと島小	熊谷組	ネイチャーゲーム		陳先生	中根 ブルーベリー園
								JA出前授業	工場見学				
								JA	クボタ				
6年		租税教室	校外学習	出前授業 ジオパーク			修学旅行		芸術鑑賞会	南極体験			
		土浦税務署	上高津貝塚	筑波山地域 ジオパーク 推進協議会			鎌倉・東京		地球のステージ	ミサワホーム			

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回高山学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時	令和6年5月13日（月）開会9:30 閉会11:30		
開催場所	つくば市立真瀬小学校2F 普通教室		
事務局（担当課）	教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	飯野誠一、石濱正善、亀山健一郎、飯島賢一、山本敦之 清水 健、根本一城、鈴木一雄、中川 元、堀越直子 宇都宮町子 高山中：校長/荒井克彦、教頭/小林 博、教務/浅野陽子 副教務/毛塚裕之 真瀬小：校長/大久保悦郎、教頭/諸橋智紀、教務/宮本順子 島名小：校長/大西秀重、教頭/小松原英樹、教務/杉崎妙子 香取台小：校長/塚本 明、教頭/佐藤尚子、教務/鈴木一彦	
	その他		
	事務局	学び推進課参事：岡野正人 生涯学習推進課課長：澤頭由紀子 生涯学習推進課参事：山口健次 生涯学習推進課係長：飯島 遊 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏	
公開・非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由	つくば市情報公開条例第5条1号（個人情報）に該当する情報が含まれるため		
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校運営の基本方針について 2 授業参観及び施設案内 3 熟議「地域・学校・保護者で育てていきたい児童生徒像について」 4 その他 		

会議録署名人	確定年月日	年 月 日
会 議 次 第 1 開会 2 選任通知書交付 3 教育長挨拶 4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて 5 座長・副座長の選出 6 協議 (1) 学校運営の基本方針について (2) 授業参観及び施設案内 (3) 熟議「地域・学校・保護者で育てていきたい児童生徒像について」 (4) その他 7 閉会		

<p><審議内容></p> <p>1 開会</p> <p>事務局：ただ今から、令和6年度 第1回 高山学園コミュニティ・スクール推進会議を開会いたします。</p> <p>はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として香取台小学校教務主任、鈴木先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>参加委員：お願いします。</p> <p>事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。</p> <p>2 選任通知書交付</p> <p>事務局：始めに「選任通知書」の交付をいたします。通知書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。</p> <p>(「選任通知書」を飯島委員に交付)</p> <p>続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。</p> <p>高山学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として中川元委員、堀口絹代委員を高山学園から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきたいと思います。</p> <p>(「委嘱状」を中川委員に交付)</p> <p>ありがとうございました。お席にお戻りください。</p> <p>この推進会議は、協議会を設置するまでのおおむね1年間を予定しています。また、皆様の選任通知書については、机の上にありますので御確認ください。委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただいております。御了承ください</p>

3 挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、学び推進課岡野参事が代読いたします。

事務局：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。

皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。

本日はお忙しい中、第1回高山学園コミュニティ・スクール推進会議に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当推進会議の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

さて、近年の急激な社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化している状況があり、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。皆様にお配りしたつくば市教育大綱においても、「保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体でこどもの育ちの場を支える。」ことが、いま必要なこととされています。

こうした背景を踏まえ、つくば市では、「コミュニティ・スクール」を導入していくこととしました。「コミュニティ・スクール」は、学校と地域、保護者がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みです。また、学校を核とした交流を通して、地域の活性化を期待することもできます。

つくば市では、令和4年度に吾妻学園をモデル地域として先行的にコミュニティ・スクールを導入し、昨年度は8学園、今年度は新たに6学園で導入する計画です。その中で見えてきた課題としては、この仕組みをいかに地域に周知し、市民の方々の理解を得ていくかにあると思っています。そのため、教育局では、出前講座のメニューを新設するなど、「コミュニティ・スクール」の周知に努めているところです。

高山学園においては、本年度よりコミュニティ・スクールの導入が始まります。皆様には、それぞれの立場から、子どもたちの未来のために何ができるか、意見を出し合っただけであればと考えています。つくば市の教育のさらなる充実に向け、どうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

出席者自己紹介（各自より）

4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局：生涯学習推進課社会教育主事村上と申します。よろしくお願いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
 - 2 コミュニティ・スクールとは
 - 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは
- について御説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします
配布されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送る、ことを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めていきたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走というスローガン」のもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと地域とともに子どもを育む学校と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。もっと踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話し合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

高山学園は今年度、コミュニティ・スクール推進会議とって準備段階の会議を実施することになっています。来年度は協議会とって、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。

現在、学校では、「いじめ、不登校」、「教員の業務量増加」、地域では、「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。学校運営協議会では第1回目に学園長・校長が学校運営の基本方針、いわゆるグラン

ドデザインの説明を行います。

その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことから学校運営協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まる学校運営協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べることができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に合った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員求めることなどです。

④の機能として学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。現在、高山学園はコミュニティ・スクール推進会議という準備段階の会議となりますが、来年度には協議会という法に基づいた本格設置となります。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのか。という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。一言で言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映してほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪およびハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときは、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずです。

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々のかかわりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々とかかわることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。新

しいことをやらなくてもよい 運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきか、地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

- ①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること
- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
- ⑤地域と学校が連携した様々な活動 地域学校協働活動が始まることです。

つくばの未来の創り手となる 子どもたちのために御協力をよろしく願います。

以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。（特になし）

5 座長・副座長の選出

事務局：協議の前に、座長と副座長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、令和6年度つくば市コミュニティ・スクール推進会議開催要項第6条第2項に「座長及び副座長は、構成員の互選によって定める」とあります。本年度については、コミュニティ・スクールを立ち上げていくということもあり、各校と教育局で協議の上、座長、副座長につきまして提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

事務局としては、高山中学校元PTA会長の亀山委員に座長を、真瀬小現PTA会長の山本委員に副座長お願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

参加委員：（拍手）

6 協議

(1) 学校運営の基本方針について

亀山座長：それでは、各学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明及びグランドデザインを受けての特色ある教育活動について、各学校より御説明をお願いします。

真瀬小学校(大久保校長)：真瀬小学校グランドデザインの説明

本校の教育目標は「笑顔いっぱい 学びいきいき 楽しい学校」です。

めざす学校の姿として、「子どもたちの笑顔あふれるさわやかな学校」「安心・安全で、居心地のよい学校」「保護者・地域と協力し合える学校」

めざす児童の姿として、「進んで学び、自分らしく表現できる児童」「自他を大切にし、笑顔で生活できる児童」「心身ともに健康でたくましい児童」

めざす教師の姿は資料を御覧ください。

これらを実現させるための今年度の組織目標を「教えから学びへの授業づくりの推進」「良さを語り、協力し合う学級づくりの実現」としました。

教えから学びへの授業づくりの推進については、将来の基礎となる力をつけるため、自分で進んで学ぼうとする意欲や自らの考えを構築して発信する力、様々な考えを受け入れコミュニケーションを図る力をつけることを目指します。良さを語り協力しあう学級づくりの実現については、自分もみんなも笑顔で生活できるようにするためにはどうすればよいかを様々な場面で考え実践することが大切であると考えています。そこから、良さを語るためには、自己理解・他者理解が大切であると捉えています。そして、様々な考え・価値観を受け入れて合意形成を図りながら協力できる体験を教育活動の中に計画的に織り交ぜていくことを実現していきます。以下の

「信頼される学校づくり」「地域と共にある学校づくり」には、今述べたことを実現するための留意点・キーワードが記されています。今年度のキーワードは、チャレンジ・笑顔・協働としました。

(諸橋教頭) 特色ある教育活動

1つ目は教育活動の基盤となる学校・学級づくりです。温かい雰囲気のある学級づくりを進め、安心・安全に過ごすことができるようにします。ユニット制を導入(1～3年 ユニット、4～6年ユニット、特支援ユニット)。ユニットを基にした、道徳・つくばスタイル科を実践。その他、地域資源の活用やICTを活用することによって時代の変化やグローバル社会への対応を進めています。また、教職員の資質・能力の向上及び同僚性の醸成に向け、人権研修を進めるなどして、本校の教育目標である「笑顔いっぱい 学びいきいき 楽しい学校」を実現したいと考えています。

島名小学校(大西校長)：島名小学校グランドデザインの説明

島名小学校のグラウンドデザイン

学校教育目標を「心豊かに 自ら学び たくましく歩む児童の育成」としています。昔で言う徳・知・体で目標を設定しています。

「進んで学ぶ子」について：3点キーワードとして特に説明します。

○自由進度学習：自分で進度を決めて自分のペースで学習を進める。

思いやりのあるやさしい子

○ルールメイキング：児童が幸せな学校生活を送るために、子ども達が自分達でルールを決めていく。

健康でたくましい子とは、体だけでなく、心もたくましく育てたいという意味です。

今年度の学校作りのスローガンは「みんななかよく手を取りあって」です。みんなとは、児童だけでなく、島名小に関わる全ての方を意味します。みんなが手を取り合って、幸せな学校づくりを進めていきたいと思っています。

(小松原教頭)

島名小学校の児童の推移：R4は800名 → 香取台と分離して減る → 再び増えてきている（年間で60～70人増）。様々な子どもたちが存在している。全体的な様子/学習面 意欲的に真面目に取り組む児童は多いものの、自主的・主体的に取り組む児童は多くありません。自由進度学習でそれらができるようにしたい。また、本校の課題として、読解力が問題になっている。文章を読み取れない。本年度の重点的な研修としていきたい。

児童の様子：素朴で素直な子たちで落ち着いている。課題としては、個々をみると、特別な配慮を要する子が増えている。特にSルーム（校内フリースクール）を利用する児童も何名かいる。そのような子達にも寄り添いながら配慮をしていきたい。

香取台小学校（塚本校長）：香取台小学校グランドデザインの説明

（塚本）学校組織目標を3つ設定しています。①探究的な学びの創造 ②特別活動を基盤とした思いやりのある児童の育成 ③保護者・地域との連携です。これらを達成するために、経営ビジョンを教育、学校組織、教職員に絞って設定しています。

どんな児童を育てるかという教育ビジョン：思いやりの気持ちを持ち、他者と協働し自分を高められる児童の育成としています。

学校組織ビジョン：時代のニーズに合わせ、しなやかに対応していく学校組織を創ろうと考えています。

教職員ビジョン：児童の成長のために課題意識をもって研鑽を積む教職員の育成としています。

これらの3つビジョンに対し、それぞれ経営戦略と経営計画を作成しております。

地域・保護者との連携：これなしには学校は成り立たない。学校と地域が対等、責任、信頼という関係づくりが大切であると考えています。中でも、対等の関係づくりが大切であり、一方的に協力してもらいばかりでなく、学校も地域のために活動していくことが必要だと考えており、まさにCSにつながると考えています。

(佐藤教頭)

現在610名。本校の特色ある教育活動

香取台小学校です。

本校は開校2年目を迎えました。現在、児童数610名です。新しく恵まれた学校環境のもと、様々な学校ボランティアに協力して下さる保護者の皆様に支えられております。

本校の特色ある教育活動としては、次の3点です。

1つは、自分から進んで学ぶ子どもを育てることを目標に、自ら課題を見つけて解決する探究的な学び、自ら計画を立てて追及する自由進度学習、これらICTを活用しながら実践しています。

2つ目としましては、社会や大人とつながる体験活動を重視しています。ZOZO

などの企業とコラボした出前授業や、保護者をゲストティーチャーとして迎え、様々な職業について語っていただく「ようこそ先輩」の活動を取り入れるなど、キャリア活動を推進しています。

3つ目は、新しい学校を子どもたち自身で創り上げることを目標に、カトちゃんプロジェクトというものを実施しています。全校じゃんけん大会やタイピング選手権、交流給食等、子どもたちの「やりたい」を実現し新しい学校を創っています。今年度は、週1回のロング昼休みを設け、縦割り班活動や児童会活動を充実させるなど、子供たちの交流の場を多く持ち、コミュニケーション力を高め、思いやりのある児童の育成を目指していきたくと考えております。以上になります。

高山中学校(荒井校長)：

高山中学校のグランドデザインについて御説明いたします。子ども達を中心におきつつ、学校運営協議会の皆様のお力をお借りしながら学校運営を行っていきたくということを示しています。「めざす教師像」「めざす学校像」を支えにしながら、「めざす生徒像」にある子ども達を育てています。

今年度の組織目標は、「自ら高めよう ともに高め合おう」です。昨年12月に全職員で研修・グループワークを行い、どのような生徒を育てていきたいかを話し合う中で決定しました。というのも、子どもたちに「やらされている感」が強く受け身であり、主体性が足りないように職員が感じてきたからです。そこで、子ども達にチャレンジをさせていこうということで令和6年度の方針を固めました。そのような場をたくさん設け、達成感を味わえるようにすることにより、自己肯定感を高めていきたくとも考えています。そして、互いに認め合えるような風土づくりが大切だとも考えています。以上より、「目指す生徒像」に挑戦する生徒・自ら考え、判断し行動する生徒・自ら学び、学びの成果を発信、共有できる生徒・学んだことを伝えることができる生徒・そして互いに認め合い、合意形成を図れる生徒を掲げています。点線の中には、そのための施策を記しました。つくば市の教育大綱にある、一人一人が幸せな人生を送ることができることを実現するためには、人権教育の推進が大切であると考え、人権尊重の意識の醸成を基盤におきながら、各教育実践を行っているところで

(小林教頭)

高山中学校の生徒の様子です。年々生徒数が増加。380名在籍。実は教室が足りない。職員の駐車場も足りない、という状況です。学習面では、どの生徒も授業に意欲的に取り組む姿が見られます。素晴らしいお子さん達を小学校から届けてもらっていると実感。休み時間にはかなり多くの生徒が休み時間に校庭に出て遊んでいて、明るく元気に活発に生活をしています。また、部活動にも非常に熱心に取り組んでいます。しかし、部活動の地域移行に大きな課題を感じているところです。まさに、コミュニティ・スクールで地域の課題として取り組んでいけたらと考えております。行事にも生徒は一生懸命取り組んでいます。

今月末に体育祭を予定していますが、ぜひ、皆様にも御覧いただけたらと思います。義務教育最後の3年間で、社会の中で幸せに生き抜く力を育てられるように、様々な施策を通じてしていきたいと思います。委員の皆様と協力して行っていきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

亀山座長：先生方御説明ありがとうございました。各校に説明して頂いたグラウンドデザインについて、御質問はございますか。

(⇒特になし)

では、先に進めさせていただきます。先ほど教育局から説明がありましたように、コミュニティ・スクール協議会の機能の一つに、「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」があります。これを踏まえて、この推進会議においても、委員の皆様にグラウンドデザインへの賛同をお願いしたいと思います。令和6年度学園・各校のグラウンドデザインに御賛同いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：(拍手)

亀山座長：ありがとうございました。校長先生方におかれましては、本内容にて学校運営をお願いいたします。

(2)

亀山座長：これより授業参観に移りたいと思います。

— 授業参観及び施設案内 —

(3) 熟議

亀山座長：続いて、熟議に移りたいと思います。ファシリテーターを真瀬小学校の諸橋教頭先生にお願いして、よろしいでしょうか。

諸橋教頭：(承認)

亀山座長：お引き受けくださりありがとうございます。では、先生よろしくお願いいたします。

諸橋教頭：熟議のテーマと進め方の説明

テーマ「地域・学校・保護者で育てていきたい児童・生徒像」

・各グループでの熟議 40 分間

— 熟議 —

亀山座長：熱心な御協議ありがとうございました。それでは、各グループで協議されたことの発表をお願いいたします。

真瀬小学校グループ

・自分が何者かが言える、アイデンティティの確立

⇒ 体験が必要。でないと視野が狭い。

・自立した学習者

⇒ 何をもって自立とするかをしっかりと。⇒ 教師も「教える」から脱却

できていない。アップデートが必要。⇒ 子どもから「教わる」ことができるセンスも大事では。学びのチャンスを生かす。これからの教師は多様な解に対応できることも大事。

- ・多様な子ども達に教師だけで対応するのは難しい。だからこそコミュニティ
- ・スクールの取組みに価値があるのではないだろうか。

島名小学校グループ

- ・あいさつができる児童。⇒ 地域から声かけが大事なのだが、御時世として知らない人からの声掛けは難しい ⇒ ビブスなどで目印をつけてもらいながら、下校時刻に協力してもらおうというアイデアが出た。
- ・自己肯定感をもってほしい。

香取台小学校グループ

- ・ウェルビーイングで「幸せの四因子（やってみよう/ありがとう/なんとかなる/ありのまま）」を体現できる子
- ・アクティブラーニングで自主的に行動したり自己決定したりできる子
- ・思いやりの心をもってコミュニケーションできる子
- ・自分の思いを言語化、可視化する中で創造力を育む

△現状は、素直な子である反面、自分のことばかりに関心がいきがち。横並びの意識も大きい。

- 地域の人材が生きる仕組み、取組み、を作っていきたい。ベースとなる自治会がないが、学校へのボランティア参加者は多い。この仕組みと取組みを作っていくことで課題を解決していけるのではないか。

高山中学校グループ

- ・元気な挨拶ができる生徒 ⇒ コロナ前は小中交流で挨拶運動をやったり、地域で声かけをしたりしていたが、時世がら知らない人から声をかけることが難しい。
- ・自分の考えをしっかりと述べることができる生徒

△現在の子どもの姿として、体力が落ちている。多様な体験が不足している。

- ⇒ 様々な体験をしている子が様々な問題を解決できる。
- ⇒ これまで地域ですてきたことを体験させてあげたいが、それを学校に投げれば学校に負担がかかる。⇒ どのようにすれば地域と共に解決できるのかを考えていくことがこのコミュニティ・スクールではとても大切。

諸橋教頭：委員の皆様、ありがとうございます。いろいろ話題が上がりましたが、その中でキーワードとして挙げられたのは、

- ・体験が必要である
- ・チャレンジできる
- ・大人がアップデートしないと子ども達に還元できない
- ・挨拶/地域での声掛けの仕方の工夫

です。ほかにも、先生達がタイミングよく子どもの話を聞き取れるセンス

を身に付けてほしいということや、学校、地域、保護者が同じ方向にベクトルを向けられることが大事だという御意見がありました。以上です。

亀山座長：発表者の皆さん、ファシリテーターの諸橋先生ありがとうございました。最後に委員のみなさんから何かありますでしょうか。

(4) その他

諸橋先生：次回ですが、令和6年10月1日(火)9:30を予定しています。会場は香取台小学校です。第3回は令和6年12月5日(木)高山中学校、第4回は令和7年2月20日(木)島名小学校を予定しています。

亀山座長：それでは、進行を事務局へお返しいたします。皆様、スムーズな運営に御協力いただきありがとうございました。

7 閉会

事務局：亀山座長、協議進行、ありがとうございました。本日の会議の内容は以上となります。

なお、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思います。委員の皆様、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。以上をもちまして、令和6年度 第1回高山学園コミュニティ・スクール推進会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。